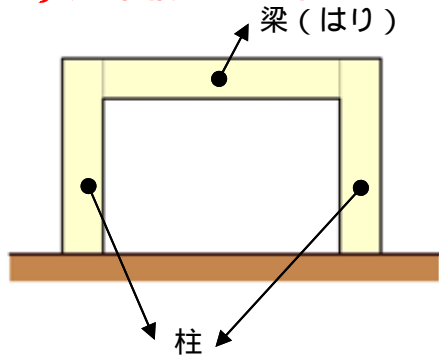


「老朽化」とはどんな状態か？ ・ ・ 少年会館と危険小学校建築を比較！

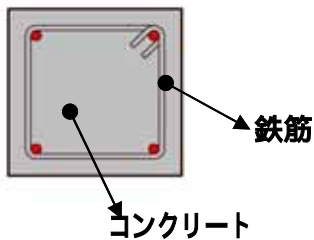
A) 建築構造と劣化 「建築構造」と建物の寿命にも関わる劣化・老朽化 を説明します



鉄筋コンクリート造建築は、文字通り「鉄筋」と「コンクリート」で構成されてた建築構造体です。

積載(人や家具等)荷重を地面に伝えたり、地震等の外部からの力に抵抗するため構造体は引張りや圧縮の動きをすることになります。

構造体として重要な部分のひとつに「柱」と「梁(はり)」があります。



主要な構造部

柱 鉛直方向の荷重を地面に伝える役割

梁 柱と柱を結びつけて構造体を架構づける役割

断面・それぞれの役割分担

「鉄筋」 引張りの役割

「コンクリート」 圧縮の役割

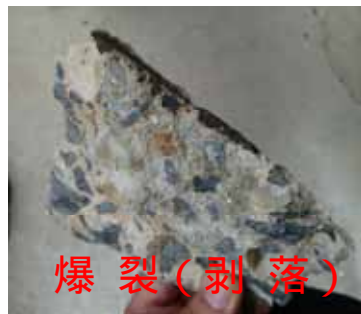
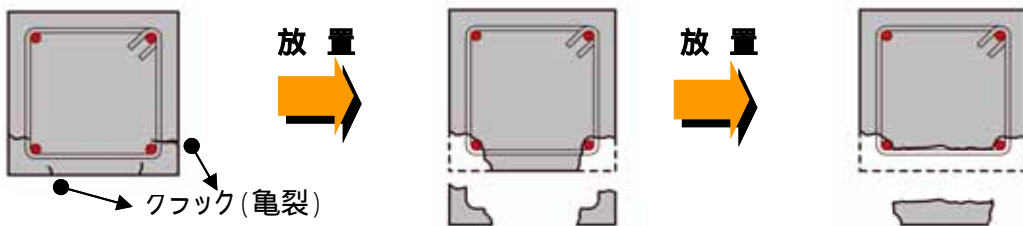
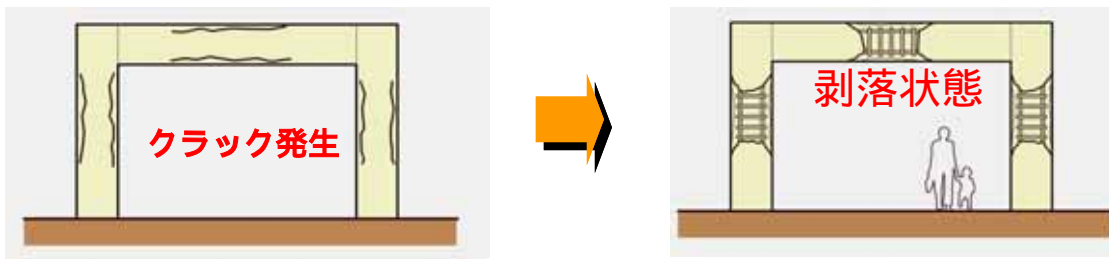
(上)柱断面

柱・梁のサイズ(大きさ)は構造計算で厳密のチェックされてその大きさが決定されます(大きすぎず、小さすぎず適正に算出)

この段階で経済性(安価にする)の目的で過小サイズに構造体を決めたのが「姉歯事件」でした。

【構造体劣化】

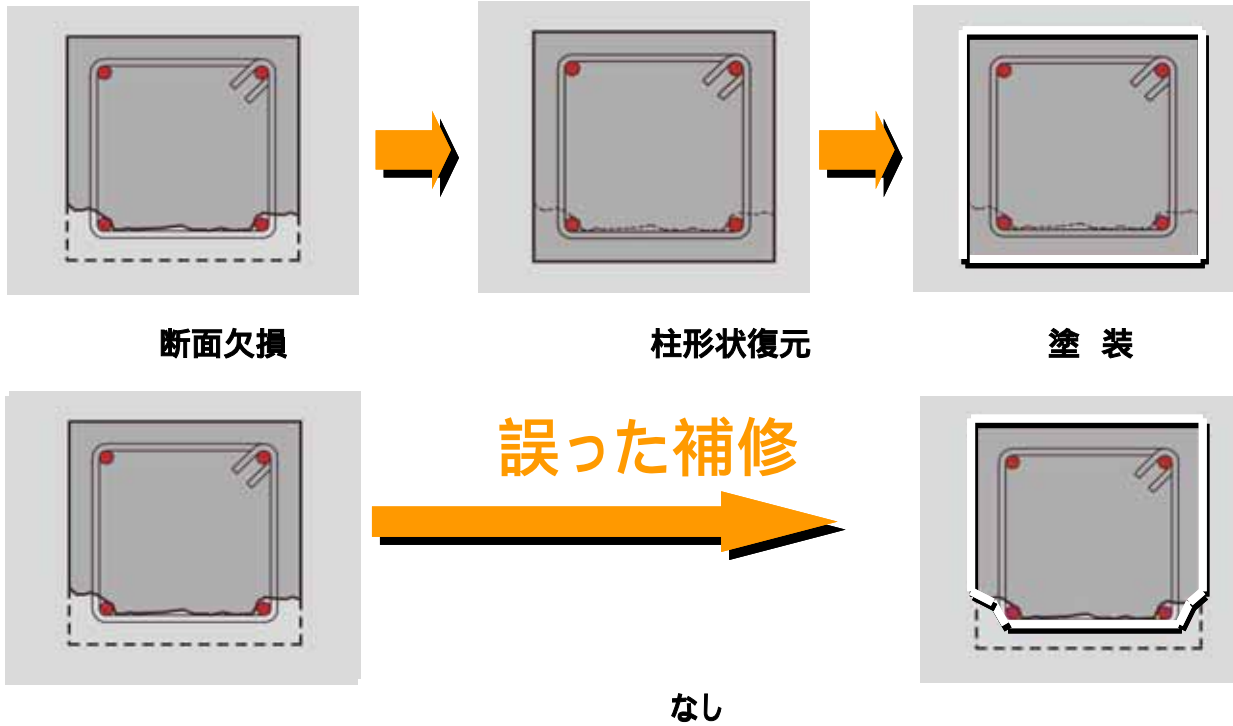
下記のメカニズムで建築構造体劣化が進行、原因はメンテナンスの無さです。



小さなクラックの状態時にモルタル・樹脂等で補修すれば被害の進行を最小限に食い留めることが出来る

B) 誤った補修!

適正な補修



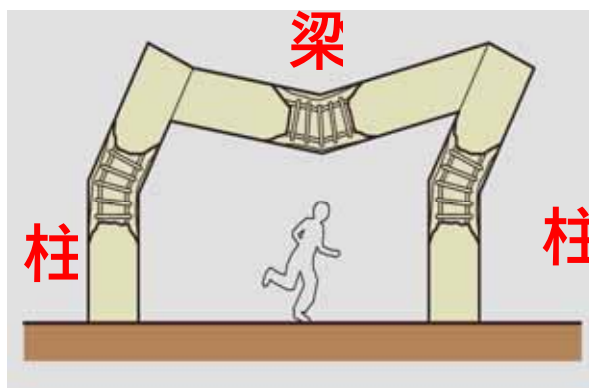
適正補修：

の手順で断面欠損状態を本来あるべき(設計上必要な断面形状)形に復元し塗装する方法が適切な補修方法

誤った補修：

補修は、断面欠損(建築構造上、致命的)が起き、適切な補修ではない

C) 人命が危ない!



(言葉の説明)

- ・断面欠損
設計上本来あるべき断面形状を欠いた状態
- ・降伏
弾性変形(元に戻る状態)から
塑性変形(元に戻れない状態)へ至る
限界状態

主要構造部(柱・梁)はそれぞれの役割があります。
降伏状態になる順序は、梁 柱の順となるように建築構造上設計を行います。
理由は、柱の降伏を遅くして、弾性状態で人の避難時間をかせぐ設計にしています。
柱の断面欠損は構造上の役割を發揮できずに人命は守れなくなる可能性があります。

D) 「耐力度調査」とは何か？

建物の構造耐力、経年による耐力低下など総合的に調査して建物の老朽化の度合いを評価するために行われるものです。

人間にたとえるなら、「健康診断」的な位置づけと考えられます。点数が悪かったら瞬時に解体の危険性があるものではないです。耐力的に弱点部分を補強・強固にすることで使い続けることは可能です。

文部科学省はその点数次第で補助金採択要件にしているのは現実です。改築要件のみに「耐力度調査」を当てる手法は、本来の調査の趣旨から逸脱してます。補助金(改築)や解体目的のために「悪用」していると言えます。

E) 防災拠点としての小学校

公共的な建物は震災等自然災害時には、防災拠点になっています。つまり、防災拠点の観点から、学校建築は丈夫に設計されています。その丈夫さを増すために、用途係数(頑丈さの指標)を1.25~1.5としています。

改築・解体の要件に関わらず、建物の健康チェックという点から本来、全ての建築の耐力度調査し、危険度の高い建築から改築の計画を立てていくべきと考えるのが適正です。

右に示す小学校は、昭和48年の建てられた校舎で現在も校舎として使用されています。柱・梁には爆裂や断面欠損が限りなく多く見られ、耐力度調査を行うまでもないくらい老朽化・劣化がいちぢるしく見られます。早急に使用中止を行い、建物の周囲に養生を行わないと危険な状態です。地震等が無くともコンクリート爆裂・剥落等で人命に関わる大事故が起きる可能性があります。

(下)危険な建築を子ども達に使わせている



F) 少年会館(旧久茂地公民館)の解体の急ぐ真意は？

先にあげた小学校の状態は、建築構造的な危険性が、建築技術者であれば疑う余地がないです。

しかしながら、那覇市内の小学校の多くがこのような状態の危険校舎にあるにも関わらず久茂地公民館(少年会館)のみ倒壊の危険性を叫び、解体を進める那覇市に姿勢には市民として何らかの解体を急ぐ疑惑の目を持ちたくなります。

活用の可能性のある建築を解体・撤去するのだろうか！？

G) 文化歴史的価値ある建築は残すべき！

行政は、甚大な事故が起きる前に、危険な建築を先にチェックし、文化的歴史的価値があり、活用のニーズが起き保存を求めている市民の声に耳を傾け2011年9月の議会議決の中止し、解体予算約3600万円を危険にさらされている小学校等の建築の安全担保に活用すべきだと考えています。

「老朽化」の本来の建築的意味を理解し、緊急に安全を確保すべき建築と、貴重で文化的財産である建築を活用すべきと考えます

解体・改築すべき危険建築の緊急対策

歴史文化的価値有る建築解体中止！

